

(ご参考①) 平成21年度の経営方針と中間期実績

平成21年度 経営方針と戦略施策：

「基本原則に則った業務運営の徹底により、守りを固めつつ、着実な成長を目指す」

「経費」「クレジットコスト」「リスクアセット」の3つのコントロールを意識した業務運営を徹底するとともに、中長期的な成長の実現に向けた「グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現」と「成長事業領域の強化」に取り組んでまいります。

■ 「経費」「クレジットコスト」「リスクアセット」のコントロール

経 費

成長事業領域への傾斜配分/事業の効率性向上 → 経費率 (SMBC単体) を40%台にコントロール

クレジットコスト

グローバルベースの与信管理機能の強化/リスク管理態勢の高度化

リスクアセット

お客さまへの円滑な資金供給/より適切かつ積極的な金融仲介機能の発揮、リスクに見合ったリターン確保

■ グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現

・SMFG連結Tier I比率8%程度を継続的に維持

■ 成長事業領域の強化

～「Follow the Basics」のキーワードの下、基本原則に則った業務運営を継続的に強化

法人向けソリューションビジネス/
投資銀行・信託業務中小企業のお客さまの資金調達ニーズへの対応
お客さまの経営課題に対して最適な解決策を提供

ホールセール/リテール証券業務

日興コーディアル証券とともに、新たな「複合金融」ビジネスの創造を目指す

個人向け金融コンサルティング

「トータルコンサルティング」の実現を目指し、
商品ラインアップを一層拡充/コンサルタントのスキル向上

支払・決済・コンシューマファイナンス

2社体制 (三井住友カード、セブイ) によるシナジーを通じた「本邦ナンバーワンの
クレジットカード事業体」の実現、オリックス・クレジットの共同事業化

グローバルマーケットにおける特定分野

現地法人「三井住友銀行 (中国) 有限公司」設立
英国パークレイズ・ピーエルシーとの業務協働推進 (ウェルスマネジメント分野、南アフリカ等)

平成21年度中間期業績の概要及び戦略施策の進捗

平成21年度の連結中間純利益は、SMBCの業績が好調に推移していること等から、業績予想比+335億円の1,235億円となりました。

また、本年7月に本邦金融機関最大の普通株増資を完了、資本の質・量の両面における拡充を進めたほか、10月1日付で日興コーディアル証券をSMBCの完全子会社とし、成長事業領域の強化を進めました。

■ 「経費」「クレジットコスト」「リスクアセット」のコントロール

(SMBC単体)

<業務純益>

業績予想比
+276億円

- ・業務粗利益 好調な国債等債券損益や、貸出金利鞘の改善に伴う国際業務部門の
資金利益の増加等により、業績予想比+193億円
- ・経 費 削減への取組みを進めた結果、経費率は47.5%に

<クレジットコスト>

取引先の状況に応じたきめ細かな対応等により、業績予想比△731億円減少

(SMFG連結)

<中間純利益> SMBCの増益を主因に、業績予想比+335億円

■ グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現

- ・発行価額総額8,610億円の普通株増資を実施
- ・優先出資証券を発行 (20/2月以降累計約1.6兆円、
約10年前発行の0.8兆円のリファイナンスを完了)

■ 成長事業領域の強化

- ・SMBCが日興コーディアル証券を完全子会社化、
総合証券会社として業務開始 (21/10月)
- ・SMBCがオリックス・クレジットを連結子会社化
(21/7月)、等

| | 21年度中間期 | 業績予想比 |
|-----------------------|---------|---------|
| (SMBC単体) 業務粗利益 | 7,193 | + 193 |
| 経費 | ▲ 3,417 | △ 83 |
| <経費率> | 47.5% | △ 2.5% |
| 業務純益* | 3,776 | + 276 |
| 与信関係費用 | ▲ 1,569 | △ 731 |
| 中間純利益 | 1,126 | + 426 |
| (SMFG連結) 中間純利益 | 1,235 | + 335 |
| | 21/9月末 | 21/3末比 |
| (SMFG連結) 自己資本比率 (速報値) | 13.13% | + 1.66% |
| Tier I比率 (速報値) | 9.55% | + 1.33% |

* 一般貸倒引当金繰入前